終わりの始まり

英語版オリジナル「The Beginning of The End」
2014年9月
https://youtu.be/3K8xfUUCKQ8
メッセージ by アミール•ツァルファティ
ビホールド イスラエル　BeholdIsrael.org

ーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー

すべての異邦人よ。主をほめよ。すべての民よ。主をほめ歌え。その恵みは、私たちに大きく、主のまことはとこしえに至る。アーメン。

今朝、異邦人の皆さんに囲まれて、ここに立てることを非常に嬉しく思います。皆さんは今朝、主をほめるために来られました。ですから、皆さんには主のまことを知る権利があります。

今朝のメッセージのタイトルは「終わりの始まり」です。皆さんにどうしても理解していてもらいたいのですが、皆さんが生まれたこの世界は、およそ6000年前に始まり、もう間もなく、その終わりを迎えます。パニックに陥る必要はありません。皆さんが今日ここにいらっしゃって、新しく生まれた者で、御霊に満たされ、主を愛しておられるなら、それは皆さんの終わりを意味するものではありません。私たちは、主と共にある永遠へと入ろうとしているのです。しかし、星や太陽や月の備わった、私たちの知っている今あるこの世界は、終わりを迎えます。私たちは皆、永遠に存在される神が、ある日決断され、一つの惑星の存在を命じ、光を照らさせ、生命が造り出されたことを知っています。だから、創世記1章1節には、初めに、神が天と地を創造したと書かれています。「初めに」と言うことですが、始まりがあるものにはすべて、ふつう、終わりがあるということは、はっきりしています。ですからペテロの手紙第一4章7節に次のように書かれていることに驚いてはいけません。

「万物の終わりが近づきました。（ペテロの手紙第一4:７）」

そこで今朝は、私たちが終わりの始まりにいることが、どうして分かるのかをお話ししたいと思います。私たちが終わりの始まりにあると言うのは、最後の最後という段階には私たちはここにはいないことを、私たちは知っており、祈り、望み、また確信しているからです。私たちはどこか違う場所にいることになります。しかし、イエスは、弟子

たちが終わりの時のしるしについて尋ねた時に、弟子たちにリストを与えられ、それらはすべてのことの始まりに過ぎないと言われました。

　　というわけで、今朝私はとてもワクワクしています。ほぼ毎週のように預言が成就されている今のような時代に生きることを、どれほど多くの人たちが望んだことでしょうか。多く与えられた者は多く求められます。私たちが目にすること、知ること、学ぶこと、理解することが増すにつれ、責任も大きくなっていくことを私たちは理解しています。神に属する人たちにとって最も大きな責任の一つは、用意ができていることです。だから、神は私たちに聖書預言を与えてくださっているのです。聖書預言は人々を怖がらせるためのものではありません。それは、何かに関する誰かの個人的な解釈を知るためのものでもありません。私たちが聖書預言を学ぶべき理由は二つあります。一つには、ペテロの手紙第二1章20〜21節に次のように書いてあります。

「それには何よりも次のことを知っていなければいけません。すなわち、聖書の預言はみな、人の私的解釈を施してはならない、ということです。なぜなら、預言は決して人間の意志によってもたらされたのではなく、聖霊に動かされた人たちが、神からのことばを語ったのだからです。（ペテロの手紙第二1:20-21）」

預言者の中には、預言者になろうと思ってなった人は一人もいませんでした。彼らは朝起きて、「自国の民に憎まれて、石で打たれて殺されたい。」と願ったわけではありません。違います。彼らは、神によって通りよき管になるのにふさわしい者と見なされ、当時の人たちが聞くことができるように、後の世代の人たちもまた理解できるようにと、聖霊なる神が語り掛けられた人たちでした。でも、勘違いしないでください。イザヤ書46章9~11節にはこう書かれています。

「遠い大昔の事を思い出せ。わたしが神である。ほかにはいない。わたしのような神はいない。わたしは、終わりの事を初めから告げ、まだなされていない事を昔から告げ、『わたしのはかりごとは成就し、わたしの望む事をすべて成し遂げる。』と言う。…わたしが語ると、すぐそれを行ない、わたしが計ると、すぐそれをする。

（イザヤ書46:9-11）」

　まず第一に、神が終わりの事を初めから告げられることが分かります。そして神は、昔から、すなわち預言者の時代から、まだなされていない事を告げると言っておられます。それから、「わたしの望む事をすべて成し遂げる」と言われます。ですから、この世界で起こっていることは、何一つとして、神にとっては驚きではありません。神は今でも王座におられます。神はすべてを掌握しておられます。神は、人間の心を知っておられるので、これらのことを予見されました。神には何が起ころうとしているかを見る

ことができ、ご自分の子どもたちに用意ができ、備えができていることを望んでおられます。神が教会を眠りから目覚めさせ、用意をさせようとしておられるそのお働きに、今朝私が少しでも貢献することができたらと思っています。

私はアメリカやヨーロッパのことをお話しするために来たのではありません。私は中東の出身ですから、中東の情勢についてお話ししたいと思います。実際のところ、預言者たちは、中東のことを語っていました。だから、全世界が中東に注目しておくべきなのです。中東で起こっていることは、確実に全世界に影響を与えているからです。それを今さら申し上げる必要はないですね。報道されているニュースの半分は中東情勢に関連したものです。それは世界経済や世界政治など、ここで起こることすべてに影響します。

2014年9月半ば現在の中東は、ほんの一年か二年ほど前の中東とは全く様子が異なっています。皆さんにもお分かりいただけるように、はっきりと説明しましょう。だいたい皆さんが知っている中東というもの、つまり、その国境がどうなっていて、どの国がどこにあるのかということは、ほとんどが、イギリスとフランスによってもたらされたものです。1916年、ロシアとイギリスとフランスが、第一次世界大戦の終わりごろに会合し、中東のレバントの地図を取り出して、捕らぬ狸の皮算用を始めました。彼らは影響力を及ぼせる地域を持っていたかったんです。しかし、皆さんもご存知のように、1917年にはロシアで共産革命が起こりました。そこでロシアは脱落し、イギリスとフランスが残りました。サイクス氏とピコ氏がそろって席に着き、サイクス・ピコ協定を結びました。それによって、イラク、エジプト、レバノン、シリア、それから、当時はパレスチナとして知られていましたが、後に分割されてその3分の2がヨルダン・ハシミテ王国となるものが生まれました。

皆さんが理解しなければならないのは、イエスがオリーブ山での会話の中で、終わりの時のしるしについて語られた時、必ずしも国が国に敵対するとはおっしゃらなかったことです。イエスは民族が民族に敵対すると言われました。民族同士、ある一つの国の中の異なる民族同士が互いに争い合うことになるんです。私たちが今、中東で目にしているのは、イエスが2000年前に語られたことが形となって来ているものです。それはシリア国内でも見られるし、イラク国内でも見られるし、イラン国内でも、エジプト国内でも見られます。それらのあらゆる小さな分派が、独立を求めたり、支配権を得ようとしたり、力をつけて好機をとらえ、この混乱の中から得られるだけのものを得ようと、互いに争っています。現在、中東を乗せている軌道が二つあります。一つは、イスラム内部の権力闘争で、そのほとんどがスンニ派とシーア派の間のものですが、おそらく皆さんのほとんどがその二つのグループの違いが何かもご存知ないだろうと思います。違いますか。彼らが殺し合いをしているのは誰もが耳にしていますけどね。もう一つは、

イスラムの世界的な権力闘争です。つまり、イスラム教徒とそれ以外の”インフィデル（異教徒）”との対立です。これによって、例えばイラクとシリアで起こっていることが、これらの国々で起こっていることと必ずしも同じではないことの説明がつくかもしれません。スンニ派とシーア派の争いが動機となって、他の国々が陰で糸を引いているんです。

画面をご覧いただくと、イラクとシリアの国旗が下にあり、それらの上には左側にサウジアラビア、右側にイランの国旗があります。本当の争いはそこにあるからです。イスラム教スンニ派の母とイスラム教シーア派の母の対立です。そして今、どこからともなく、誰も予期していなかった、あるテロリスト組織が出現してきています。それはISIS（イスラム国）と呼ばれるグループです。ISISというのは、国々には関心がありません。それは、それ自体のカリフ支配、それ自体の主権を打ち立てることに関心を持っており、北部シリアのアレッポ市から、東に向かってイラクに入り、南下して拡張しています。彼らはもはやISISとは自称していません。私たちはまだISISと呼んでいますが、彼らはイスラム国家という名前に変更しました。「ISIS」という名称は、「イラクとシリアのイスラム国」を略したものでしたが、彼らの計画は更新されました。彼らは自らをそれら二つの国に制限していません。彼らはヨーロッパや北アフリカも含めて、巨大なカリフ統治領を打ち立て、何とかしてイスラム教の全盛期を再建したがっています。ここでスンニ派とシーア派の違いを皆さんが理解できるように簡単に説明しましょう。それらの名前は毎日のように耳に入って来ますから。30秒で説明します。シーア派というのは、画面右側の人です。彼らはああいう装いをしています。スンニ派は左側の人です。イスラム教の85%はスンニ派です。左側の人です。右側の人たちは約15%です。彼らはシーア派です。違いは何でしょう。彼らの間の唯一の違いは、ムハンマドの死後、イスラム世界を支配する権利が誰にあったのかというものです。それだけです。スンニ派は、最もその能力のある人物が支配するべきで、それはムハンマドの弟子で、イスラム国の初代カリフとなったアブ・バクルであるべきだと信じています。「スンニ」という言葉は、「預言者の伝統に従う者」という意味です。スンニ派は、追随者、最も能力のある者が次期カリフになるべきだと考え、そのために自分たちをスンニ派と呼んでいます。追随者を信じます。シーア派の人たちは、誰に能力があるかには全く関係なく、ムハンマドの血筋の者でなければならず、ムハンマド死後の支配は彼の従弟アリー・イブン・アビー・ターリブに移されるべきだったと信じています。それだ

けのことです。30秒でその二つのグループの違いを説明しました。一方はアブ・バクルを信じ、他方はアリーを信じます。なぜ彼らがシーア派と自称するかというと、「シーア・アリー」というのが「アリーに従うグループ」という意味で、略してシーア派です。以上です。シーア派はアリーが引き継ぐべきだったと考え、スンニ派はアブ・バクルが引き継ぐべきだったと考えます。違いはただそれだけです。そして彼らは過去、ほぼ1200年にわたって殺し合いをしてきました。それだけのことのためにです。考えられません。理解しようなどと思わないでください。その必要はありませんから。2013年の終わりごろ、エルサレム・ポスト紙はスンニ派とシーア派の闘争が、イスラムの怒りの矛先をイスラエルからそらせているかもしれないと報じました。そして、それは的を得ていました。イスラム世界全体が内部紛争に対処し始め、イランはイスラエルがもはや誰からも憎まれていないことに気がつきました。そこで「何とかしなくては」と言うことになり、イランは、「どうすればいいかは分かっている。ちょっとある人たちを操ればいいんだ」と決断しました。メムリ（中東報道研究機関）は、イランの新しいけん制作戦は、スンニ陣営を説得することだと報じました。イランはシーア派ですから、スンニ派を説得します。イランにはっきりと分かっているのは、「我らはスンニ派を嫌う以上にイスラエルを嫌っている」ということです。「だから、我々はスンニ派を説得して、敵はイスラエルであることを納得させ、互いに殺し合うよりも、我々はみなイスラエルに的を絞るべきだと納得させなければならい。イランとではなくイスラエルと戦うようにスンニ陣営を説得するのだ。」そこで、イスラエルに一番近く、そこで問題を起こすことのできるスンニ派は、となると、ハマスが浮上してきます。ハマス・テロ組織はガザにあるスンニ派のテロ組織です。彼らに資金や物資を与えて何かやらせよう。その後のことはご周知の通りです。私たちは50日間、ハマスと闘っています。もしも皆さんがイランには、全世界を揺るがしているISISと戦う用意があるとお考えなら、それは間違いです。５~6日前の9月15日ですが、イランはアメリカからの対ISISへの協力要請を退けました。ということは、彼らはいまだに皆に、イスラエルに的を絞らせ、イスラエルを憎ませ、イスラエルを破壊させたがっているということです。スンニ派とシーア派の闘争という路線に戻らせないようにと。そしてイランは、その目的を達成するために、秘密の戦争網を作り出しました。画面を見てください。イランはテヘランから武器を乗せた飛行機をレバノンに飛ばし、南部のバンダル・サラームにある港湾から、弾薬やロケットといったもろもろのものをアフリカの角や、スーダンや、エリトリアや、ソマリヤに向けて輸送します。そしてそれらはそこにあるテロ組織に供給されます。彼らは両側からイスラエルに攻めて来ようとしています。現実に、彼らはペルシャ湾から紅海へ船を送り始めました。イスラエルはそのうちの１艘をとらえましたが、その１艘だけでも、40本の地対地ロケット弾、181の迫撃砲、40万発の突撃銃（アサルトライフル）弾が見つかりました。1艘だけでです。どれほどの兵器が輸送されたか、ご想像が

つくでしょう。それは、イスラム過激派の焦点をイスラエルに向けておこうとする、彼らの試みなんです。くり返しますが、彼らはハマスを見つけました。ハマスは彼らにとってはおあつらえのものでした。ハマス憲章によると、

「その時〔最後の審判の日〕はムスリムがユダヤ教徒と戦い、石や木々の陰に潜むユダヤ教徒をも殺すまで起こらない。石や木々は言う『おおムスリムよ、アッラーの僕よ。我が後ろにユダヤ教徒がおるぞ。やってきて殺すがよい』と。（第7条）」

ここでバイオリンの出る幕です。詩的で素敵な言葉が使われていますから。皆さん、ユダヤ人がユダヤ人であるからという理由でユダヤ人の破滅を呼びかけるような組織とは、交渉することも、話をすることも、取引をすることもありません。ガザで何が起こっているか、皆さんにもお分かりいただけるように、もう少し後でお話ししますが、皆さんの中にも、預言者エゼキエルが第36章で、イスラエルの地の回復を描写しているのをご存知の方が多いと思います。かつて不毛の荒れ地であったものが、今は肥沃な、驚くほどの緑地になってきています。実に、聖書にはエゼキエル書36章8節にこう書かれています。

「だが、おまえたち、イスラエルの山々よ。おまえたちは枝を出し、わたしの民イスラエルのために実を結ぶ。彼らが帰って来るのが近いからだ。（エゼキエル36:8）」

つまり、聖書には、エゼキエル36章で、神が地に肥沃になれと命じられると書かれています。ユダヤ人が大量にその地に戻ってくるのに備えるためです。そして、エゼキエル37章には、残りの民がホロコーストを生き残ることと、ユダヤ人が現実にその地に戻ることが描写されています。そして今、全世界は、それに続く二章が成就されるのを待っています。36章には土地のことが書かれてあり、37章には民のことが書かれてあり、38-39章には、この世界を震撼させる驚くべき戦いのことが書かれています。ゴグとマゴグの戦いと言えば、皆さんもご存知でしょう。エゼキエルが言及している国々は、私が今朝ここで言及している国々です。その現代名は白字で、エゼキエル書に出てくる聖書での名前はその下に緑字で書いてあります。それでイランの下にはペルシアと書かれていました。

これからトルコを見て行きますが、皆さんにはゴメルとトガルマの家（ベテ・トガルマ）も見ていただきたいと思います。トルコが中東におけるイスラエルの最大の協力国の一つであったことを知っておくのは、重要なことです。残念なことに、約５~6年前に過激派のイスラム政党が勝利し、非常に過激的な人物が首相に選ばれました。彼は今、トルコの大統領となっています。トルコはアメリカ合衆国に対し、また、全世界に対し、非常に危ない賭けをしています。トルコは、世界には、ISISと戦っているように

見せかけています。しかし、現実には、トルコが門を開いていなかったら、だれもやって来てISISに参加することはできませんでした。ISISに加わる人たちは、ヨーロッパやアメリカやカナダなど、様々な場所から来ます。彼らは最初にトルコに上陸し、それからシリアに入ります。そこでリクルートされて、色んな場所で戦い始めます。トルコはその門を開け広げています。非常におもしろいのですが、彼らの大統領が、大統領職に立候補した時、彼には一つのことが分かっていました。「私はイスラム教の中にある分裂については語るまい。私は彼らの憎しみをイスラエルに向けさせよう。」イランがやったのと同じことです。そして2014年8月3日、ガザ紛争が終わる少し前のスピーチで、トルコ大統領は言いました。

> イスラエル人は「パレスチナ人を出産することがないように女たちを殺し、成長することがないように赤ん坊を殺し、国を守ることができないように男たちを殺す。」エルドアンはまた、イスラエル政権は民族的虐殺を犯し、ナチス・ドイツ指導者アドルフ・ヒトラーの足跡をたどっているとも言った。

彼らには分かっていません。彼らは色んな偽りの情報を手に入れ、それが真実だと信じています。写真を探して、それが現実だと納得します。それが今、ヨーロッパで信じられないほどに成長している反ユダヤ主義をあおっているものなんです。とにかく、トルコ大統領がそのように発言していることを知っていただきたいと思います。そして、8月5日、トルコは当面のところ、イスラエルからガスを購入しないことに取り決めました。彼らは本当はそれが欲しくてたまらないんですけどね。それから、ほんの９日ほど前、９月11日に、全世界がISISと戦うための計画をまとめようと集まった際、トルコはISISに対する戦闘任務をアメリカに許可しませんでした。ISISが存在する地域に最も近い同盟国はトルコです。それなのに、彼らは空軍基地や軍隊を使わせないのです。トルコ全領域が、アメリカの軍事行動に対して閉鎖されています。彼らには、そのように裏表があるんです。これはゴメルとベテ・トガルマです。その地域は、近い将来に、ロシアとペルシアに加わってイスラエルを攻撃して来ます。

スーダンはどうでしょうか。スーダンは、聖書ではエゼキエル書で、エチオピアとして言及されています。今日のエチオピアは、聖書ではクシュと呼ばれています。今日のスーダンが、聖書に書かれているエチオピアのことです。そこを理解していただきたいと思います。今日の名前は必ずしも聖書の時代の名前とは一致しません。皆さんは、「スーダン？何でよりによってスーダンなんだ？」と思っておられるかもしれません。私が話しているのは、南スーダンのことではありません。それは新しくできた国でクリスチャンの国です。そうではなく、北側の大きなスーダンです。皆さんがご存知かどう

か分かりませんが、スーダンはイランがロケット弾やその他の色々な武器を運び入れるのを許した国です。それらがガザからイスラエルに向かって撃たれるためにです。この図を見てください。イスラエルがスーダンを攻撃したうちで私が皆さんにお話しすることができるのは、4回だけです。2009年1月、2009年2月、2012年10月、2014年7月です。皆さんが知っているべきではないものについては、お話ししません。ただ皆さんに分かってもらいたいのは、イスラエルがスーダンを攻撃したので、スーダンはその報復をしたがっているということです。お分かりですか。これは重要なことです。イスラエルは、はるか1200マイル（1930㎞）の距離を、スーダンの中心まで航空機を飛ばし、イランが送ったロケット弾や武器を破壊しました。それらがイスラエルまで届かないようにするためです。

ロシアはどうでしょうか。ロシアのことを考えると興味深いものがあります。聖書では、ロシュ、メシェク、トバルです。これらがエゼキエルが当時ロシアを言及するのに使った名前です。私がオンラインで見つけたウラジーミル・プーチンの絵をご覧ください。これは皆さんの理解に役立つかもしれません。これは、昔のロシアのツァー（ロシア皇帝）たちの絵です。プーチンは自らをツァーとして宣言しようとしているのだと誰もが考えています。それは実際には民主制ではありません。この男はKGB（ソ連国家保安委員会）職員です。考えてもみてください。元KGB職員などいません。それは半分妊娠しているようなものです。そうであるか、そうでないかのどちらかです。彼はKGB職員であり、それらしい振る舞いをします。最近、彼は、アメリカがもはやそんなに真剣ではないことに気がつきました。それはラテン語で”verbum non factum”と言います。その意味は「言葉だけで行動が伴わない」ということです。世界は、超大国がただ言葉だけで何もしないということを嗅ぎ付けると、「ああ、そういうことなら、思い通りのことをしよう」と考えます。言葉だけでそれが実行されることがないと分かっているからです。そこで、アメリカが制裁を課すと、ロシアは何をしたでしょう。ロシアは西側諸国の制裁への報復として8月7日に食物の輸入を禁じました。マクドナルドは禁止です。その禁止令が出て以来、彼らは体重が減っています。私は皆さんに、それがそれだけにとどまるものではないということを理解していただきたいと思います。それは西側諸国に対する反抗であるだけではなく、個人的なものでもあるんです。ロシアの副首相が

何百万人もの人たちに向けて発したツイッターの投稿を見てください。プーチンはトラと一緒に座り、オバマはプードルを抱っこしています。皆さんは笑われるかもしれませんが、これによって彼らは皆さんを辱しめようとしているんです。皆さん、これは挑発的な行為なんです。これによって、彼らは「我々は行動派だ。我々は強い。彼らは違う」と示しているんです。あの写真は、笑いを誘うためのものではありません。実際には、メッセージを発信するためのものなんです。そしてそのメッセージははっきりしています。「我々は強く、彼らは弱い。我々は口にしたことを行おうとしているが、彼らは口にしたことを行うことは決してない。」それだけのことです。世界はそのように理解するんです。

では、エジプトの話をします。エジプトは、聖書の中でもエジプトです。しかし、エジプトは、イスラエルに攻めて来る国々としてエゼキエル書に書かれていません。それどころか、イザヤはイスラエルとエジプトの間にできる大路のことを語っています。言い換えれば、これらの国々は協力することになるんです。彼らは同盟国になります。この新しい大統領について言うと、私たちは彼に抱き着いたり、彼を抱擁したりしたくはありません。アラブ人たちに彼が私たちに協力していると思われるといけないからです。でも、彼はイスラエルにとっては最高の存在なんです。なぜなら、彼は私たちと同じようにテロと戦うからです。一つ例を挙げると、エジプトはシナイ作戦において32人のハマス兵士を殺しました。私たちはそのような報告をほぼ毎週のように受けています。彼らは、私たちと同じようにハマスと戦います。彼らはその悪を見極めます。ハマスが境界防衛作戦（Operation Protective Edge）でイスラエルにしようとしたことは、かなり注目に値するものです。ご覧ください。こちらはハマスのロケット弾のイスラエルを中心にした射程範囲を示しています。見てください。それはほぼイスラエルの国全体を覆っています。たいていの人たちはあんまり地理に強くありません。だから、皆さんもお得意ではないでしょう。そこで、私はこれをカリフォルニアの言葉に訳してみました。いいでしょうか。もしも、ハマスがロサンゼルスからロケット弾を放つとすると、その射程範囲は、北はベーカーズフィールドから南はサンディエゴを超えた辺りまでになります。皆さんはそのような脅威の下で生活しますか。もちろん、なさらないでしょう。だから、イスラエルは、それに対処しようとしていたわけです。しかし、私たちがその作戦を開始した時に何を発見したと思いますか。私たちは、彼らはただロケット弾や迫撃砲を送っているだけだと思っていたのですが、彼らの活動のほ

とんどは、実際は、地下で行われていたのです。私たちは彼らをテルアビブの地下鉄工事に雇ったらいいと思います。工事が早く進むと思います。とにかく、ガザからイスラエル領地内へと、20本以上のトンネルが見つかったんです。ちなみに、今夜、イスラエルではローシュ・ハッシャーナーという名の祭り（ラッパの祭り）が始まります。テロリストたちは、7月や8月にその紛争が起こっていなかったら、この日、今日をイスラエルの歴史の中で最も血なまぐさい日にしようと決めていました。彼らは、国境に沿って、8か所のイスラエル居留地を同時に攻撃する計画でいました。数百人を殺し、可能な限りの人数を誘拐し、後に、彼らの囚人釈放のための交渉に使おうとしていました。ガザで起こった出来事を、神に感謝します。私たちがそれらのトンネルを破壊し、さしあたって彼らを麻痺させることができたことを神に感謝します。

では、ちょっとアメリカ合衆国を見てください。皆さんにも、いくばくか個人的に関わってくることになります。アメリカはエゼキエル書38章13節で言及されている、と私は思っています。私はヨーロッパも言及されていると思っていますし、アメリカも言及されていると思っています。ヨーロッパはタルシシュの商人で、タルシシュの若い獅子たちとは、タルシシュの商人から出て来たものです。アメリカはヨーロッパの人たちによって築かれました。私はこれらの国々は、イスラエルが攻撃されるのを傍観し、攻撃する者たちを非難するけれども何もしないものとして、そこに言及されていると思っています。皆さんもエゼキエル書を読んで38章のその節まで来ると、お分かりになると思います。彼らは口は出しますが、何もしません。ニューヨーク・タイムズ紙は8月4日に、ガザ侵攻はアメリカとイスラエルの関係を緊張させるものだと報じました。どういうことかというと、アメリカは、またしても、間違った側についていました。ご覧ください。私たちはハマスと戦っていました。ハマスはカタールとトルコから資金を得ています。ご覧ください。皆さんの国務長官は、はるばるパリまで行って、停戦の仲立ちにトルコとカタールを招きました。ハマスを支援する者たちに、校正な仲介役、調停役になることを期待したんです。イスラエルとパレスチナを交渉の場に招く代わりに、彼はこれらの人々（カタール、トルコ、ヒズボラ、イラン）を招待しました。そして彼はパレスチナ、ヨルダン、サウジアラビアを除外しました。中東は、今、これまでになかったほどにアメリカに対して憤っています。その結果、どうなったでしょうか。2014年8月25日ですから、三週間前でしょうか。アラブ諸国がリビアを攻撃し、アメリカを驚かせました。つまり、エジプトとアラブ首長国連邦がジェット戦闘機を送ってリビアを攻撃したのですが、彼らはそのことについて全くアメリカに予告しませんでした。それは、アメリカと、中東における元同盟国との間の信頼関係がどれほど悪化してしまっているかを示しています。私の最大の懸念は、それだけではありません。私は、メディアが皆さんに非常にたくさんの嘘を吹き込んでいると思っています。私は彼らをミデヤン

人（メディア人）と呼んでいます。メディアが嘘や欺きを吹き込むので、残念なことに、若い人たちは、まず最初に洗脳されてしまうだけでなく、完全に混乱してしまうんです。聖書にはホセア書にこう書いてあります。

「わたしの民は知識がないので滅ぼされる。（ホセア書4:6）」

時には、ただ知識がないこと、あるいは、間違った情報が与えられることによって、間違ってしまうことがあります。アメリカがもう中東を必要としていないと、私が信じる理由は何でしょう。それはアメリカがエネルギー自給国になりつつあるからです。2005年には皆さんは消費量の60%の石油を輸入しました。2013年には12%しか輸入していません。そして2015年までには、アメリカは一日に1000万バーレルを産出すると予測され、2016年には、天然ガスと石油の世界最大輸出国になると予測されています。つまり、皆さんは、もはやサウジアラビアや、他の中東の国々からの石油を一滴も必要としなくていいんです。ですから、もう気にかける必要はないんです。そして、アメリカに関心を持たれていないという事実は、彼らの気に入らないんです。そして彼らが気に入らないなら、皆さんはそれを知ることになります。なぜなら、彼らには、糸を操って興味深い人たちを興味深い場所に送り、興味深いことをすることができるからです。それが彼らのやり方なんです。彼らはそんな風に動くんです。最近の世論調査では、「支援的」ではない年代が浮き彫りになっています。イスラエルを支持する代わりに、その世論調査では、18歳から29歳までの若いアメリカ人（ユダヤ人、非ユダヤ人に関係なく）の3分の1が、ガザの対立をイスラエルのせいにしていることが分かりました。最近の調査です。私はこれが一番怖いと思います。それは、皆さんの大学やキャンパスが、イスラエルに対する憎しみを育てる温床となり、皆さんの若者たちが洗脳されて狂信的になっていくのを見ることです。今、ISISに志願する人たちの年齢があまりに若いのも不思議はありません。21歳や22歳の人たちで、26歳なら、おそらくもう年寄りでしょう。信じられません。そしてそれはすべて公然と行われているんです。

ヨーロッパはどうでしょう。タルシシュの商人です。ガーディアン紙は2014年8月7日に、ヨーロッパ中で、反ユダヤ主義がナチス以来の高まりを見せていると報じました。「専門家たちは、憎悪犯罪はユダヤ人コミュニティーをおびえさせるもので、襲撃はイスラエルーパレスチナ紛争にとどまるものではないと言う。」ほんの数週間前のニューズウィーク誌の表紙をご覧ください。「脱出：ヨーロッパのユダヤ人はなぜ再び逃げているのか」皆さん、目を見開いてください。ユダヤ人は今、世界中で嫌われています。ナチス・ドイツ以降では、過去最悪の状態です。私たちは今、イスラエルの孤立を目にしています。それは、イスラエルを攻めて来るものたちと、また、口先ばかりで何もしないものたちのそれぞれに、心構えをさせ、その基盤を作ります。またしても、

私たちは残されます。しかし、嬉しいことに、神がいてくださって、ご自身の民を守ってくださいます。

皆さんは、「サウジアラビアはどうなんだ？」と思われていることでしょう。サウジアラビアは聖書ではシェバとデダンとして言及されています。彼らは口を出すものたちのうちに含まれていますが、彼らは私たちを攻撃してはきません。彼らが実際に私たちを攻めて来ることはありません。2013年の終わりに、噂が国外に届き始めました。イスラエルとサウジアラビアが連携して一致協力し始めたというものです。バンダル・ビン・スルターン皇太子とイスラエルのモサド諜報特務庁のタミール・パルド長官が、諜報活動、並びにイランの核計画に対する妨害工作における両者の協力を増すため、11月24日にウィーンで行われた会合に、それぞれの代表を送りました。覚えてますか。イランはイスラム教シーア派の母で、サウジアラビアはイスラム教スンニ派の母です。イランは、イスラエルの破滅以上に、サウジアラビアの破滅を望んでいます。ですから、イスラエルが何らかの目的でイランに飛ぶためにサウジアラビアの上空を飛ぶ際、サウジアラビアは沈黙を守ります。それはもうすでに取り決められたことです。すでに書面に書き留められているんです。

それでも足りないとすれば、最後にもう一つお話しして、皆さんとの地理の旅を終えたいと思います。シリアです。皆さん、私はこのことをすでに申し上げましたが、もう一度申し上げます。私たちは天に目を向けて、近づいている贖いから目をそらさずにいるだけでなく、ダマスカスからも目を離さないでいなければなりません。なぜかと言うと、私は全世界が準備をしている中で、それが始まるきっかけとなるのはダマスカスだと信じているからです。これが、あの戦争に火を点けることになる要素だと思います。シリアで起こっていることから目を離さないでください。ちなみに、ダマスカスというのは、単なる都市の名前ではなく、ある意味では国家の名前です。シリアという名前は聖書にはありません。聖書にはアッシリアが出てきます。でも、シリアというのは現代名で、ダマスカスという名前は、今のシリアを表しています。そしてその町と国の破壊は、イザヤ書17章1節で予告されていました。

「ダマスコに対する宣告。見よ。ダマスコは取り去られて町でなくなり、廃墟となる。

（イザヤ書17:1）」

あれがダマスカスです。ご覧ください。巨大な都市です。2800年以上前に建設されてから、イザヤが言ったように破壊されたことは一度もありません。思い出してください。エゼキエルは色々なことについて語りましたが、イザヤが第46章で、神は、まだなされていない事を昔から告げると言っています。ですから、ダマスカスの破壊に関するイザヤの預言は、まだなされていない事を預言したものです。それは起こります。もうそこまで迫ってきています。そして、非常に説明しがたいことなんですが、私たちの周りの誰もがダマスカスのことを懸念しているんです。ロシアは、ダマスカスに西洋諸国を入れたがりません。イランも、ダマスカスに入ることに関して西洋諸国に警告を与えています。ISISはダマスカスを奪取したがっています。シリアの反政府勢力もダマスカスを支配したがっています。誰もがその土地に関心を持っています。そしてそれが攻撃される時、それが破壊される時、大混乱が始まります。それはもう起こる寸前です。私は、皆さんを怖がらせたり、心配させようとしてこう言っているのではありません。ルカの福音書21章28節と31節です。まず28節では、弟子たちがイエスに「先生、終わの時のしるしとはどういうものですか」と尋ねた時にイエスは、飢饉や疫病があり、地震が起こるであろうなどなど、今、毎日のように起こっていることを挙げられました。ハリケーンがサンルーカス岬を直撃するなど、誰が予想したでしょう。歴史上、他に見られないほどの数の地震が毎日起こるなど、誰が信じたでしょう。いまだにエボラなどの病気と闘うことになるとは、誰が考えたでしょう。皆さん、もういよいよです。イエスは、これらのことは初めに過ぎないとおっしゃいました。それからイエスは、いちじくの木の芽が出ると夏が近いことが分かるように、イスラエルがその地に戻り、これらのことが起こり始め、誰もがイスラエルを破壊したがるのが見えたら、夏が近いことが分かるとおっしゃいました。そして31節です。これらのことがすでに起こったら、神の国が近いことが分かります。それは、私たちがイエスと共に戻って来て、一千年王国を確立し、私たちが千年間イエスとともに統治する時のことです。では、私たちはどこにいるでしょうか。私たちは、携挙と、反キリストを招じるあの戦争の開始の間の、ごくわずかな時間にあります。私は預言者（※プロフィット）ではありません。私が設立したのは、非営利団体（※非-プロフィット）です。私はそれが今日起こるとか、明日起こるとは言いません。しかし、パウロが彼の生きていた時代にそれが起こればいいと願い、「キリストにある死者が、まず初めによみがえり、次に、生き残っている私たちが、たちまち彼らといっしょに雲の中に一挙に引き上げられ…」と言ったなら、なおさら、これらすべての終わりの時のしるしを見ている私たちがどれほど準備をしているべきでしょうか。

では、ローマ人への手紙13章11~13節をもって締めくくりたいと思います。

「あなたがたは、今がどのような時か知っているのですから、このように行ないなさい。あなたがたが眠りからさめるべき時刻がもう来ています。というのは、私たちが信じたころよりも、今は救いが私たちにもっと近づいているからです。（ローマ人への手紙13:11）」

救いとは、この世界からの体の救いです。私たちは皆、救われていますから。私たちの救いが近づいているというのは、この世界からの体の救いのことです。ローマ人への手紙8章で、この世からの体の救いのことが記されています。

「夜はふけて、昼が近づきました。ですから、私たちは、やみのわざを打ち捨てて、光の武具を着けようではありませんか。遊興、酩酊、淫乱、好色、争い、ねたみの生活ではなく、昼間らしい、正しい生き方をしようではありませんか。（ローマ人への手紙13:12-13）」

私は皆さんが楽しみにしておられることを願っています。キリストの時代以来、私たちほど多くのものを目撃している世代はありません。私たちの肩には、非常に重い責任がかけられています。神は私たちにずっと多くのことを要求されるでしょう。もしもここに座っていながら、救われているかどうかも確かでない方がおられるなら、私はこのメッセージがあなたに恐怖を与えるものであったらよいと思います。しかし、皆さんがここに座っておられて、救われていることを知っておられるなら、私はこのメッセージが皆さんに希望を与えるものであることを願います。この悪しき世は、私たちにとっては終わりを迎えます。信じない方たちにとっては終わりとはなりません。その人たちは患難時代を体験しなければならなくなります。私たちは違います。私は、患難期前携挙説支持者です。もしもあなたがここに居残るおつもりなら、良かったですね。私にはそのつもりはありません。では祈りましょう。